

乙訓平和委員会ニュース

発行年日 2023年8月25日 No.456 発行・乙訓平和委員会 編集責任者・米重節男
電話・FAX 075-932-3546 MAIL heiwaotokuni@gmail.com

「第35回乙訓非核平和の鐘をつくつどい IN 光明寺」 35人の参加者で「原爆許すまじ」を合唱

8月6日午前8時から35回目となる乙訓非核平和の鐘をつくつどいが、乙訓2市1町の7か寺で開かれました。

乙訓平和委員会は、長岡京市栗生の西山浄土宗総本山光明寺を担当して、同時の鐘をつきました。

光明寺には35人が参加しました。参加者の自己紹介の時に、最初の人の方が歌を歌いましょうと呼びかけて、「原爆許すまじ」を参加者が一緒に歌いました。

ウクライナでの戦争で、ロシアが核兵器使用をしばしば口にしてしている情勢で、参加者は三たび核兵器が使用されることのないようにとの想いを込めて、鐘をつきました。

乙訓の鐘つきは今年で35回目となります。7か寺に合計216人がつどいきました。

京都新聞が大山崎町大念寺での鐘つきを取材して、7日付の乙訓版に記事（下記）を掲載しました。



光明寺の鐘つきを終わって参加者記念撮影

戦後78年 京滋 太平洋 戦中 島に原爆 投下された。 乙訓地域の計7カ所、原爆投下の午前8時

平和の願い 鐘に託し

広島原爆の日 乙訓7カ寺
戦没者冥福祈り黙とう

寺で、市民らが平和を願って鐘をつく集いで、大山崎町大山崎の大念寺には約30人が集った。同寺の館長道住職は「世界では戦闘が続いている。この鐘の音が世界中に響き渡れば」とあいさつ。参加者が「原爆犠牲者の無念をほらし、核兵器のない社会をつくる。非核・平和の日本となるよう力を尽くす」とする誓いを読み上げた。

行事は「乙訓非核・平和の鐘をつく集い」で、大山崎町大山崎の大念寺には約30人が集った。同寺の館長道住職は「世界では戦闘が続いている。この鐘の音が世界中に響き渡れば」とあいさつ。参加者が「原爆犠牲者の無念をほらし、核兵器のない社会をつくる。非核・平和の日本となるよう力を尽くす」とする誓いを読み上げた。

山田修裕

平和を願い、鐘をつく市民(大山崎町大山崎大念寺)



京都新聞8月7日付洛西版記事を転載

医師 日野原重明さんが語ったことばは響く

最近、ネットラジオをよく聴きます。

聴くジャンルは、音楽が多いのですが、先日たまたま講演の番組を聞く機会がありました。

2017年に105歳で亡くなられた、医師の日野原重明さんのお話しでした。3回シリーズで、1、2回目も良かったのですが、3回目は深い内容で聴きごたえがありました。

放送内で話された内容(著者『生きかた上手』にある内容)を書き出してみます。

日野原重明さんの名言(人生の教訓)

- 人生とは死への肯定です。
- 老いとは衰弱ではなく、成熟です。
- 家族とはあるものではなく、手をかけて育むものです。
- 人はいくつになっても生き方を変えることができます。
- 失うことを怖れるより、与えることで喜びは生まれます。
- ミスをおかして、ミスに学ぶ。だから成長できるのです。
- ありがたい言葉で人生を締めくくりたいものです。
- 死がなんであるかを子どもに伝えるのは大人の役目です。
その問いに答えるのではなく、共に考えるべきです。

最後の「その問いに答えるのではなく、共に考えるべきです」というセリフに一番ジーンとききました。今の教育のスタイルに通じるものがあります。

共に、一緒に考えるというのを、この本の初版の

2001年にすでに言われていたのが素敵だと思いました。

子ども、生徒との話を受け止めながら、共に考えていく・・・。

今の時代には子どもとの会話だけでなく、年齢に関係なく、どの人との関係の中でも一番に求められていることだと思います。(23.08.15)

カルチャーラジオ NHK ラジオアーカイブス

「声でつづる昭和人物史～日野原重明」2

「文化講演会 あなたの健康寿命を、どうして自分のものにすべきか」

平成12年6月4日R2(第2放送)で放送したものを、2023年7月10日(月)午後8:30放送。

2023年9月4日(月)午後9:00配信終了まで聞けます。

[カルチャーラジオ NHK ラジオアーカイブス R22023年8月14日\(月\)放送](#)

←このリンク先の戻ったところに、日野原さんの放送が3つあります。



故日野原重明医師(インターネットから)